

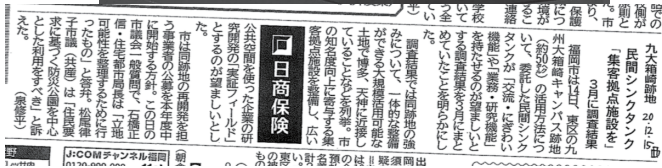
松尾質問を報じる西日本新聞の報道(12月15日付)↓



市長を迫及する松尾市議(12月14日)←

(オモテの続き) 松尾市議は、こんな開発が行われれば、防災公園を中心とした地元住民の跡地利用の願いは押しつぶされてしまうと批判。

調査報告書がうたう開発の方向をやめるように求めましたが、市はあくまで「参考」だとして、この方向を改めようとしませんでした。



アスベスト飛散に手立てを スレート波板などの建材にまったく無策な高島市政

松尾市議は、12月議会で、アスベスト対策についても質問しました。

8年後にアスベストを含む建物の解体がピークを迎えますが、アスベストが含まれている建物がどこにあるかは公表していません。

ハザードマップ公表を

松尾市議は、住民の命を守るため、ハザードマップを作り住民に公表するよう求めましたが、市は個人情報を守るために非公表としました。

また、無届けでのアスベストを含む解体工事などが横行していますが、市はパトロールを年間10~20件ほどしかしていません。年間2000件もの建物が

福岡市で解体される中でどうてい間に合わないとして、松尾市議はパトロールの強化を求めました。

レベル3建材も規制を

さらに、アスベスト解体に対する国の補助の期間を延長し、市独自の補助も行うよう求めました。

アスベスト建材のうち、古い工場の屋根などに使われているスレート波板など「レベル3」の建材には、現在法の規制がほとんどありません。

松尾市議はさらなる法改正とともに、アスベスト対策に必要な措置を盛り込んだ条例の制定を求めました。

高島市長は「改正された法に適切に対応する」と答弁するに止まりました。